



## CHAPTER 3

# Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool のインストール

この章では、Cisco Secure Access Control System (ACS) -Cisco Identity Services Engine (ISE) Migration Tool のインストールに関する情報を提供します。また、重要な移行ツールのインストールに関する考慮事項、および移行プロセスについて以下のトピックで説明します。

- 「移行ツールのインストール ガイドライン」 (P.3-1)
- 「システム要件」 (P.3-2)
- 「セキュリティの考慮事項」 (P.3-2)
- 「データの移行および展開のシナリオ」 (P.3-2)
- 「Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool のインストールおよび初期化」 (P.3-4)

## 移行ツールのインストール ガイドライン

インストールを開始する前に、次のガイドラインをよく読んでください。

- ご使用の環境で、移行する準備ができていることを確認してください。Cisco Secure ACS 5.1/5.2 Windows または Linux のソース マシン以外に、シングルプライアンスまたはデュアルプライアンスの移行用の 1 つのデータベースを備えたセキュアな外部システム、およびターゲット システムとして、Cisco ISE 1.1 アプライアンスを展開する必要があります。
- Cisco Secure ACS 5.1/5.2 のソース マシンにシングル IP アドレスが設定されていることを確認してください。各インターフェイスが複数の IP アドレス エイリアスを持つ場合、移行のときに移行ツールは失敗します。
- ACS から ISE への移行が同じアプライアンス上で実行される場合に備えて、ACS データのバックアップが作成されていることを確認してください。
- 以下のタスクが完了していることを確認してください。
  - Cisco ISE 1.1 がターゲット マシン上にインストールされている (デュアルアプライアンスの移行の場合)。
  - CSACS-1121 アプライアンスを再作成するのに使用できる Cisco ISE 1.1 のソフトウェアがある (シングルアプライアンスの移行の場合)。
  - Cisco Secure ACS 5.1/5.2 と Cisco ISE 1.1 の正しいクレデンシャルおよびパスワードをすべて保持している。
- ソース マシンと、データベースを備えているセキュアな外部システム間でネットワーク接続を確立できるようにします。

## システム要件

Cisco Secure ACS マシンは表 3-1 に説明するシステム要件を満たしている必要があります。すべてのマニュアルは Cisco.com で入手できます。

表 3-1 移行マシンのシステム要件

プラットフォーム	要件
Cisco Secure ACS 5.1/5.2 のソースマシン	『 <a href="#">Installation Guide for Cisco Secure ACS for Windows 5.1</a> 』を参照してください。Cisco Secure ACS 5.1 のソースマシンにシングル IP アドレスが設定されていることを確認します。
Cisco ISE 1.1 ターゲットマシン	次のマニュアルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.1</a></li> <li>• <a href="#">Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.1.1</a></li> </ul> このアプライアンスでは、最低 2 GB の RAM が必要です。
Linux、Windows XP	Java JRE バージョン 1.6 以降の 32 ビットをインストールします。移行マシン上に Java JRE がインストールされていない場合は、移行ツールは機能しません。
64 ビット Windows 7	Java JRE バージョン 1.6 以降の 64 ビットをインストールします。移行マシン上に Java JRE がインストールされていない場合は、移行ツールは機能しません。
32 ビット Windows 7	Java JRE バージョン 1.6 以降の 32 ビットをインストールします。移行マシン上に Java JRE がインストールされていない場合は、移行ツールは機能しません。

## セキュリティの考慮事項

移行プロセスのエクスポート フェーズでは、インポート プロセスの入力として使用されるデータ ファイルが作成されます。データ ファイルの内容は暗号化され、直接読み取ることはできません。

ユーザは、Cisco Secure ACS データをエクスポートし、それを Cisco ISE アプライアンスへ正常にインポートするために、Cisco Secure ACS 5.1/5.2 および Cisco ISE 1.1 の管理者のユーザ名およびパスワードを知っている必要があります。インポート ユーティリティによって作成されたレコードを監査ログ内で識別できるように、予約済みユーザ名を使用する必要があります。

## データの移行および展開のシナリオ

Cisco Secure ACS-ISE Migration Tool は、Cisco Secure ACS 5.1/5.2 のデータ オブジェクトを Cisco ISE 1.1 へ移行する目的で設計されています。シングル アプライアンスにおけるデータ移行プロセスは、分散環境におけるアプライアンスのデータ移行プロセスとは異なります。以降のセクションでは、これらのトピックについてとりあげます。

- 「[シングル Cisco Secure ACS アプライアンスからのデータ移行のガイドライン](#)」 (P.3-3)
- 「[分散環境におけるデータ移行のガイドライン](#)」 (P.3-3)

# シングル Cisco Secure ACS アプライアンスからのデータ移行のガイドライン

ご使用の環境内にシングル Cisco Secure ACS アプライアンスがある場合（または複数の Cisco Secure ACS アプライアンスがあるが、分散した配置内にはない場合）は、「[ログインおよび移行ツールの使用 \(P.4-1\)](#)」に記載されているように、Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool を Cisco Secure ACS アプライアンスに対して実行します。

## 分散環境におけるデータ移行のガイドライン

分散環境で Cisco Secure ACS を実行することができます。たとえば、1 つのプライマリ Cisco Secure ACS アプライアンス、およびこのプライマリ アプライアンスと相互運用する 1 つ以上のセカンダリ Cisco Secure ACS アプライアンスがあるとします。分散環境で Cisco Secure ACS を実行する場合は、以下のようにする必要があります。

- 
- ステップ 1**    プライマリ Cisco Secure ACS アプライアンスをバックアップし、それを移行マシン上で復元します。
- ステップ 2**    プライマリ Cisco Secure ACS アプライアンスに対して Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool を実行します。
- 



**(注)**    大規模な内部データベースがある場合、シスコではスタンドアロンのプライマリ アプライアンスから移行を実行し、複数のセカンダリ アプライアンスへ接続されているプライマリ アプライアンスへの移行は実行しないことを推奨しています。移行プロセスの完了後、セカンダリ アプライアンスを登録できます。

---



**(注)**    Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool は約 20 時間稼働して、10,000 個のデバイス、25,000 人のユーザ、100,000 個のホスト、100 個の ID グループ、420 個のダウンロード可能アクセスコントロールリスト (DAACL)、320 個の許可プロファイル、6 個のデバイス階層、および 20 個のネットワーク デバイス グループ (NDG) を移行することができます。

---



**(注)**    Cisco Secure ACS 5.1/5.2 のデータを Cisco ISE アプライアンスへ移行開始する準備ができた場合は、移行先がスタンドアロンの Cisco ISE ノードであることを確認します。移行が正常に終了した場合のみ、その後で何らかの展開設定 (Administrator ISE や Policy Service ISE のベルソナなど) を開始することができます。移行のインポート フェーズは、サポートされているハードウェア アプライアンス上で、Cisco ISE ソフトウェアの新しい「クリーンな」インストールにおいて実行する必要があります。

---

# Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool のインストールおよび初期化



(注)

移行ツールは、Cisco ISE のフレッシュ インストール後、または **application reset-config** コマンドを使用して Cisco ISE アプリケーションの設定をリセットし、Cisco ISE データベースをクリアした後で実行する必要があります。このため、移行プロセスの完了前は、Cisco ISE FIPS モードを有効にすることはできません。

Cisco ISE ユーザ インターフェイスを使用して Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool ファイルをダウンロードすることができます。

**Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool ソフトウェアをダウンロードして実行するには、以下の手順を完了します。**

- ステップ 1** Cisco Secure ACS ソフトウェアおよび Cisco ISE ソフトウェアが複数のアプライアンスにインストールされている場合は、Cisco ISE ユーザ インターフェイスのアドレス バーで以下のコマンドを入力して移行ツールをダウンロードします。

`https://<hostname-or-hostipaddress>/admin/migTool.zip`



(注)

移行ツール ファイルのダウンロードで現在サポートされているブラウザは、Mozilla Firefox バージョン 3.6、6、7、8、9、および 10 のみです。Microsoft Windows Internet Explorer (IE8 および IE7) ブラウザは、このリリースでは現在サポートされていません。

- ステップ 2** Cisco Secure ACS ソフトウェアおよび Cisco ISE ソフトウェアが同じアプライアンスにインストールされている場合、または新しい Cisco ISE ハードウェア アプライアンスを使用している場合は、移行ツール ファイルの migTool.zip を以下の場所からダウンロードします。

<http://www.cisco.com/cisco/software/release.html?mdfid=283801620&flowid=26081&softwareid=283802505&release=1.1&relind=AVAILABLE&rellifecycle=&reltype=latest>

- ステップ 3** .zip ファイルを解凍します。図 3-1 は、Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool ソフトウェアのディレクトリ構造を示しています。

図 3-1 Cisco ACS 5.1/5.2-Cisco ISE 1.1 Migration Tool のディレクトリ構造

Name	Size	Type	Date Modified
bin		File Folder	1/24/2011 4:00 PM
lib		File Folder	1/24/2011 4:00 PM
config.bat	1 KB	MS-DOS Batch File	1/23/2011 8:09 PM
migration.bat	1 KB	MS-DOS Batch File	1/23/2011 8:09 PM
migStart.sh	1 KB	SH File	1/23/2011 8:09 PM

282108

- ステップ 4** **config.bat** ファイルを編集して、移行プロセス用の Java ヒープ サイズに対してメモリの初期量を割り当てます (図 3-2 を参照してください)。メモリは、それぞれ 64 メガバイト、512 メガバイトにします。

図 3-2 Java ヒープ サイズの設定

```

1 @echo off
2 rem *****
3 rem      Copyright (c) 2010 Cisco Systems, Inc.
4 rem      All rights reserved.
5 rem *****
6
7 rem Setting java Heap Sizes
8 rem To set the initial amount of memory allocated for.
9 set Xms=64M
10 set Xmx=512M

```

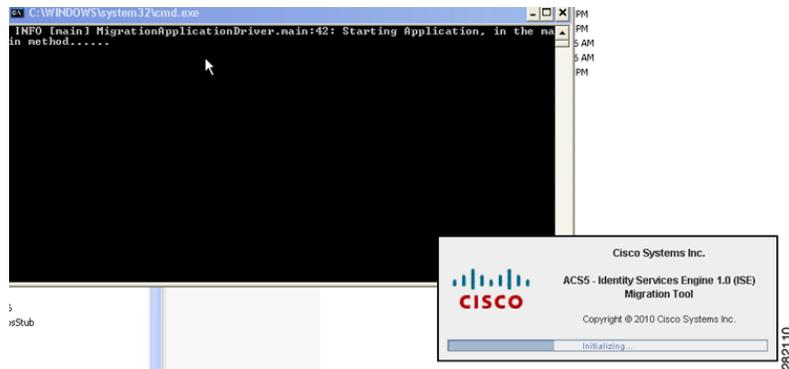
282109

**ステップ 5** [保存 (Save) ] をクリックしてヒープ サイズの設定を保持します。

**ステップ 6** migration.bat をクリックして移行プロセスを起動します。

初期化画面が表示されます (図 3-3 を参照してください)。

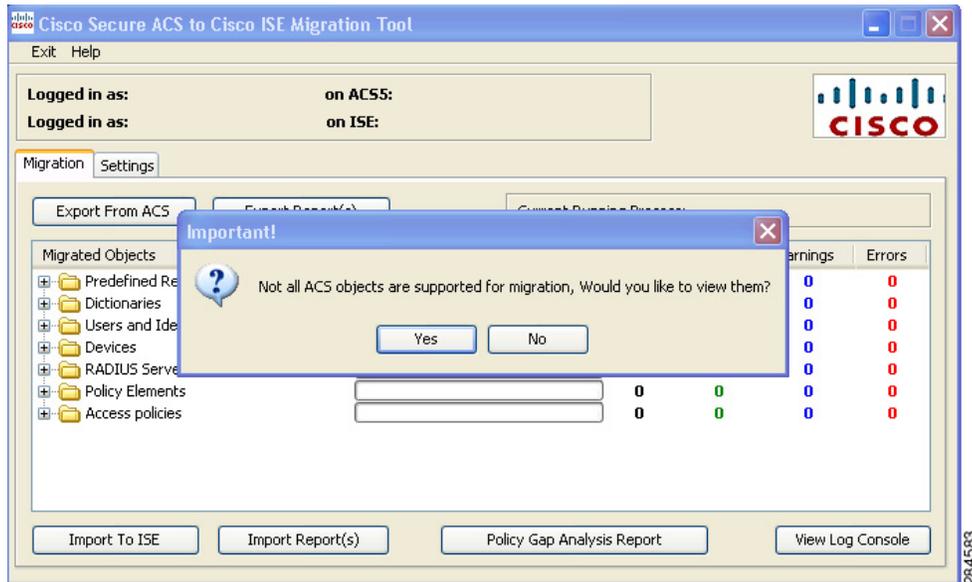
図 3-3 初期化画面



282110

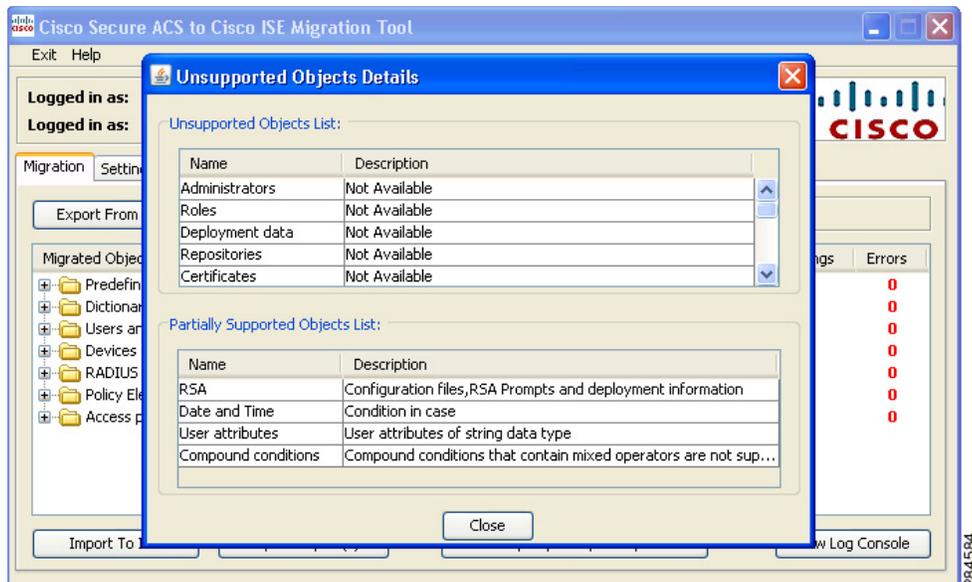
移行ツールが初期化された後でも、サポートされていない Cisco Secure ACS オブジェクトを引き続き移行する必要があります。以下のメッセージが表示されます (図 3-4 を参照してください)。

図 3-4 サポートされていないオブジェクトで表示されるメッセージ



**ステップ 7** [はい (Yes)] をクリックして、サポートされていないオブジェクト、および一部しかサポートされていないオブジェクトのリストを表示します (図 3-5 を参照してください)。

図 3-5 未サポートおよび一部サポートのオブジェクトのリスト



**ステップ 8** [閉じる (Close)] をクリックします。

[ヘルプ (Help)] > [未サポートオブジェクトの詳細 (Unsupported Object Details)] を選択して、サポートされていないオブジェクトのリストを表示することもできます。

移行ツールを実行するには、[第 4 章「Cisco Secure ACS-Cisco ISE Migration Tool の使用」](#)を参照してください。

